

津和野町埋蔵文化財報告書

# 西中組遺跡

平成4年度西中組遺跡発掘調査概報

1993

津和野町教育委員会



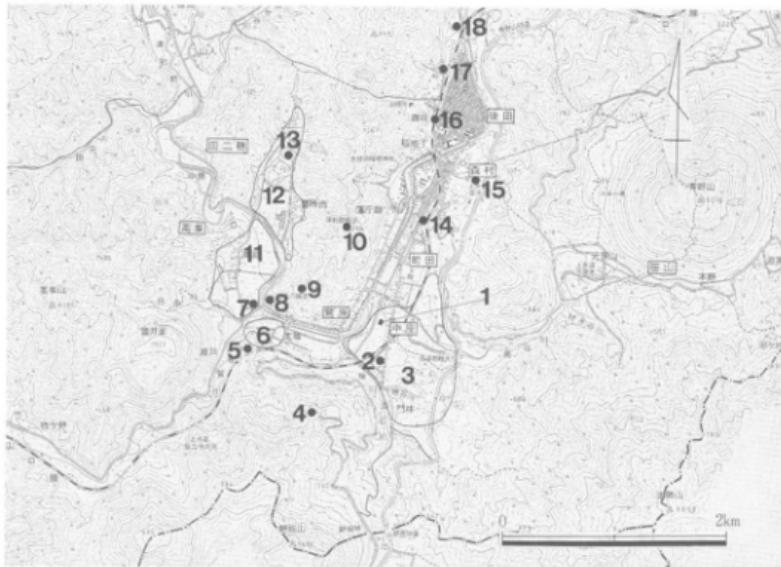
## 例　　言

1. 本書は、島根県鹿足郡津和野町大字中座地内に所在する西中組遺跡において、平成4年度に津和野町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査にあたっては、下記の方々にご指導いただいた。

山口大学人文学部助教授	中　村　友　博　氏
島根県教育委員会文化課	熱　田　貴　保　氏
津和野町文化財保護審議会会长	鈴　川　兼　光　氏
3. 本書に用いた方位は、第1図と第2図においては真北を示し、第3図においては磁北を示す。
4. 調査によって作成された記録類及び出土遺物は、津和野町教育委員会に保管されている。

## はじめに

津和野町では、昭和52年度以来町内各所では場整備事業が実施されてきました。津和野町教育委員会では、ほ場整備事業の計画策定後、事業主体者である津和野町土地改良区と、事業計画地内に所在する埋蔵文化財の取扱について協議を重ねてきました。西中組遺跡（第1図1）においては、平成元年度に分布調査を実施し、埋蔵文化財保護のための資料を得ましたが、ほ場整備事業の性格を勘案した上で、一部記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。

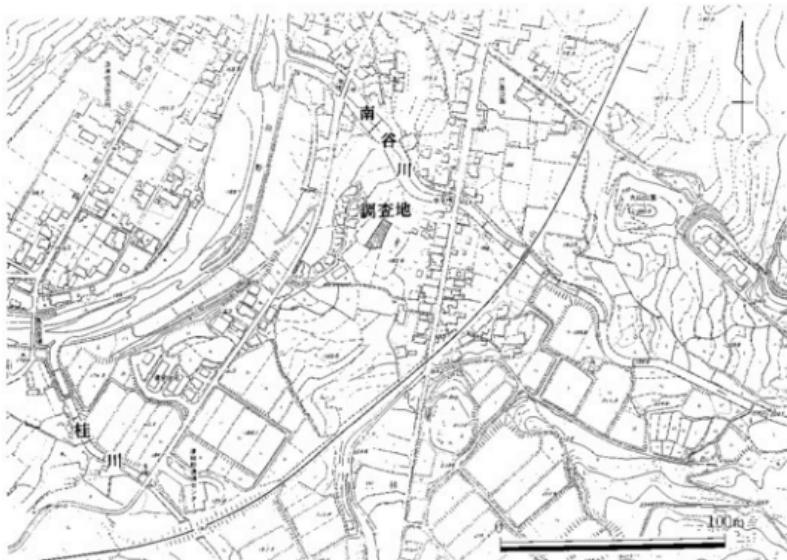


第1図 西中組遺跡周辺遺跡分布図

- |                  |                    |                 |           |
|------------------|--------------------|-----------------|-----------|
| 1. 西中組遺跡         | 2. 山崎遺跡            | 3. 中庄遺跡群        | 4. 陶晴賢本陣跡 |
| 5. 茶臼山城跡         | 6. 大蔭遺跡            | 7. 宝篋印塔（伝吉見民部墓） |           |
| 8. 驚原八幡宮         | 9. 中荒城跡            | 10. 津和野城跡       | 11. 高田遺跡  |
| 12. 喜時雨遺跡        | 13. 要害山砦跡          | 14. 森遺跡         | 15. 丸山遺跡  |
| 16. 山根遺跡         | 17. 宝篋印塔（伝吉見正頼夫人墓） |                 |           |
| 18. 宝篋印塔（伝吉見頼行墓） |                    |                 |           |

西中組遺跡の周辺には中座遺跡群（第1図3）がとりまき、縄文時代早期から近世にいたる一大複合遺跡群が展開しています。山崎遺跡（第1図2）は、平成元年度及び3年度に発掘調査されており、縄文時代早期の押型文土器の包含層、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての堅穴住居、中、近世の掘立柱建物群などが検出されました。

西中組遺跡は、郷土史家故岩谷建三氏によって発見された遺跡で、平成元年度の分布調査では、弥生時代後期から中世にいたる遺物包含層の存在があらためて確認されました。所在地は、島根県鹿足郡津和野町大字中座字西中組で、津和野川によって形成された河岸段丘上に立地し、津和野川の2つの支流、桂川と南谷川に挟まれた扇状地上に位置します（第2図）。水田面に巨大な地山礫が露頭している箇所があり、調査の結果からも大型の花崗岩礫が多量に流転している状況がみられ、激しい地形形成の様子が窺われます。



第2図 平成4年度西中組遺跡調査区位置図

## 調査の経過

発掘調査は、12月から開始しました。調査地は、扇状地上の田地にあたり、足下に津和野川を眺める河岸段丘上に立地します。調査区画は、南北方向に則した任意の10m×10mの方眼を調査地に設定しました。発掘区は、水田の畦畔によって高低2つの区域に区切られ、南側の高位部をA区、北側の低位部をB区と呼称しました（第3図）。

掘り下げは、まず重機により耕作土を全面的にはぎ取り、基盤土以下は手掘りによって行ないました。基盤土下は遺物の出土地点を確認しながら掘り下げました。遺構は、地山面上まで掘り下げましたが検出されず、完掘状況について写真撮影、実測を行いました。取り上げた遺物については、水洗、注記のち接合、復元を行いました。

調査は、平成5年3月まで実施しました。



掘り下げ作業



礫群検出作業



平板実測作業

## 調査の概要

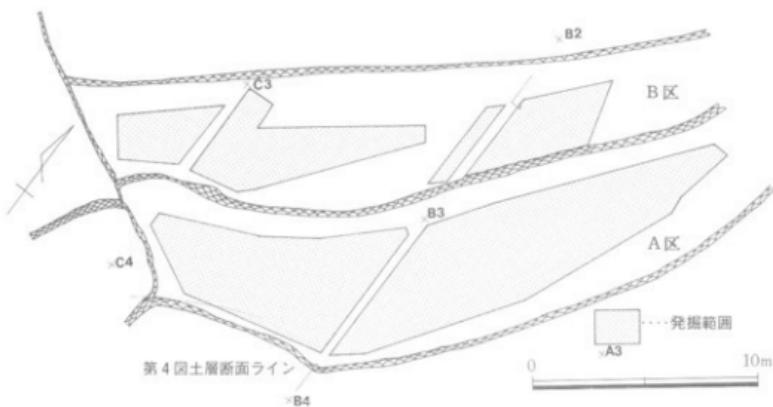
調査の結果、発掘区内が数次にわたる土石流の堆積を被っていることがわかりました。まず、多量の大型花崗岩礫を伴う大流出のあと、縄文時代後期終末から晩期初頭にかけての時期の土器と石器を含む遺物包含層が形成され、幾次かの流出を経て、弥生時代後期の遺物包含層が形成されました。再び幾次かの流出を経て、中、近世期には安定した地勢となるようです。遺構は検出されませんでしたが、各期の包含層から多量の遺物が出土しました。



遺物出土状況



砾群検出状況



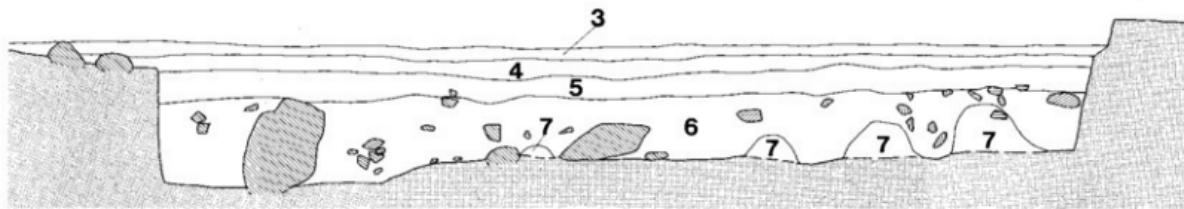
第3図 平成4年度西中組遺跡調査区概念図

B-3

N

182.00m

S



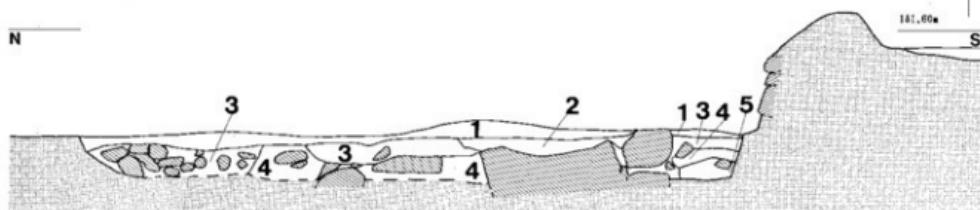
- 1. 暗灰褐色土(耕作土)
- 2. 暗灰色土(客土)
- 3. 暗茶灰色土(客土・基盤土)
- 4. 暗紫灰色土(礫混じり・遺物包含層)
- 5. 暗紫茶灰色土(礫混じり・遺物包含層)
- 6. 暗茶褐色土(礫混じり・遺物包含層)
- 7. 黄褐色砂質土(礫混じり・地山)

N

B-3

181.60m

S

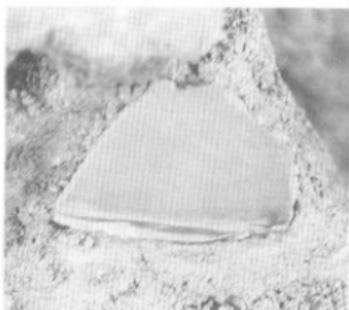


0

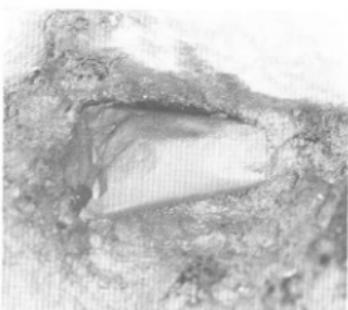
2m

第4図 調査地堆積状況土層断面実測図

## 出土した遺物



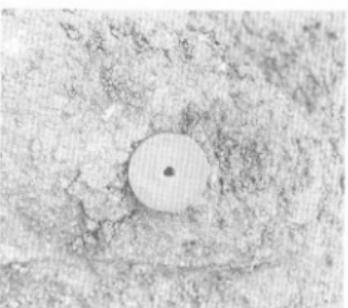
縄文土器鉢



磨製石斧



姫島産黒曜石



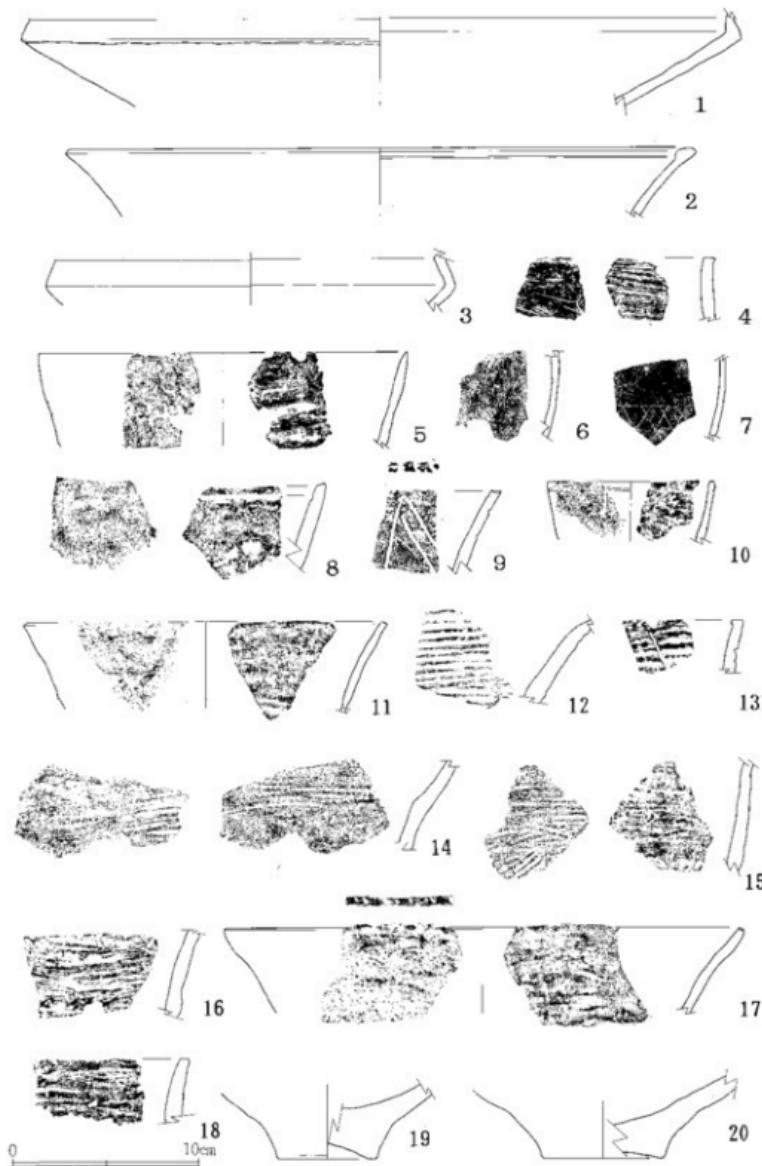
石製紡錘車



弥生後期土器壺



土師器壺



第5図 出土遺物実測図

## おわりに

今回の調査の結果、縄文時代後期終末から晩期初頭、弥生時代後期、中世の3時期の遺物包含層と、土石流の痕跡が確認されました。各期とも遺構は検出されませんでしたが、付近の遺跡の本体が存在することを窺わせることとなりました。調査地の東側に南北に延びる道路（第2図）が、古来山口方面への主要幹線道として利用されてきましたが、その沿線に形成された集落を中心とする範囲が、各期の集落遺跡の候補地として推定されます。

遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、陶磁器、石斧、黒耀石片、紡錘車などが出土しました。第5図は、縄文土器の実測図で、1～7が精製土器です。12～15は条痕調整を明瞭に確認できる土器ですが、全体的には擦痕を主体とする調整で、内面をナデ調整するものが多いようです。器形は、素縁の口縁部で、端部を面取りするもの（4、8、9、11、13、17、19）が主体ですが、精製土器には、口縁部で屈曲した立上りをみせるもの（1）や口縁端部を凸帯により肥厚させるもの（2）もみられます。底部は平底の上げ底を呈します。8は口縁部下内面に沈線を施しており、9と17は口縁端部にキザミを施しています。5～7、9、10、13は、沈線による幾何学紋様を描くものです。5は横位に、6は縦位に弧紋が配され、7は格子目が施されています。9、10は直線で区画された範囲の内側に斜線を入れるもので、13にわずかに確認される斜線も、この紋様の範疇に含まれるものと思われます。



